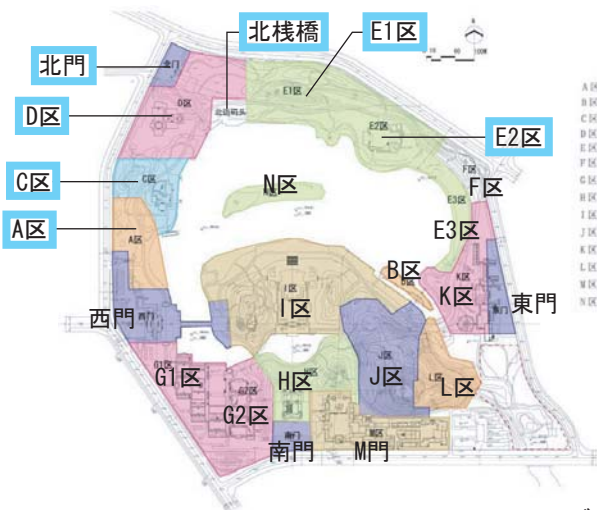
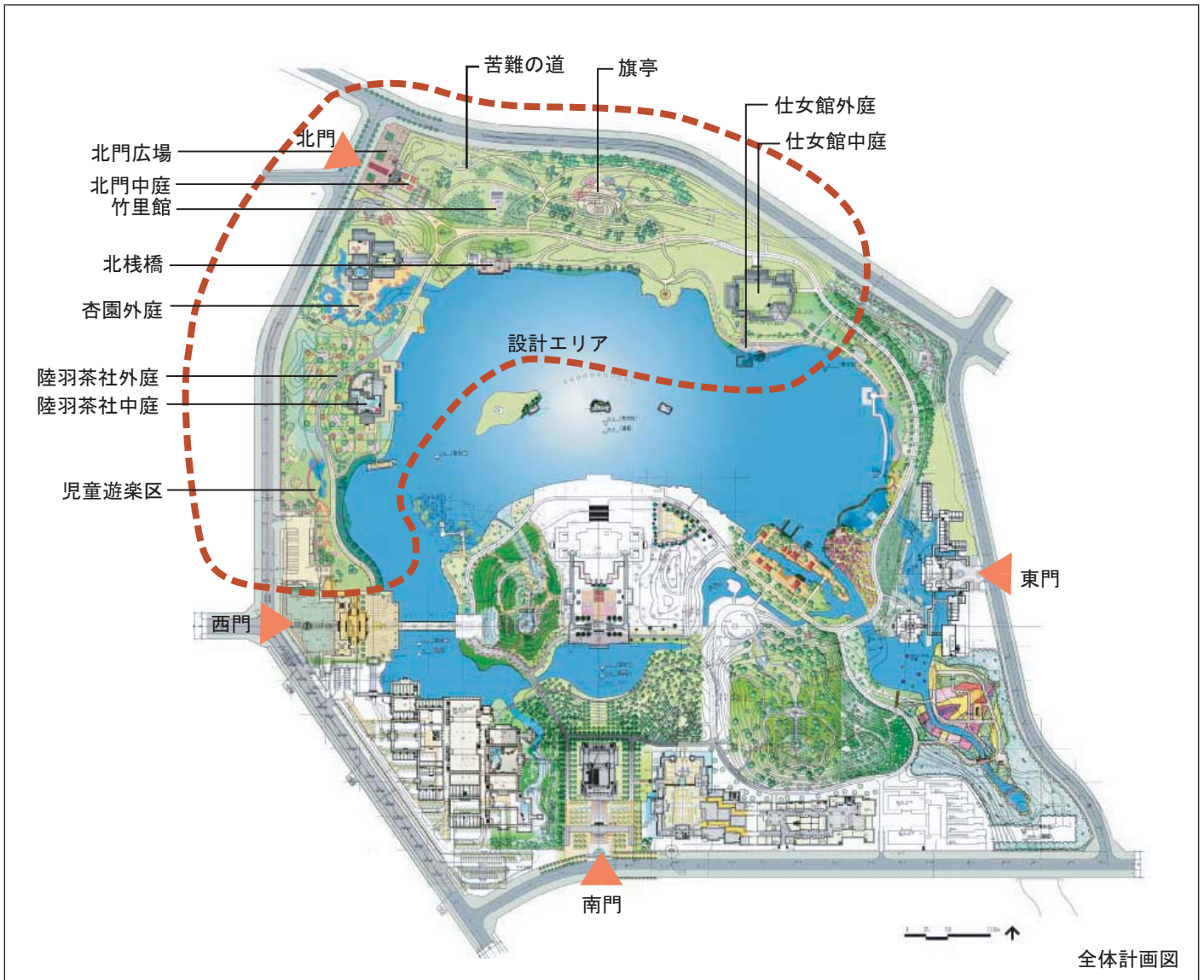




# 西安大唐芙蓉園

- ・基本計画 2004年3月
- ・基本設計 2004年4～5月
- ・設計監理 2004年6月～2005年3月
- ・開園 2005年4月11日
- ・面積:67ha
- ・事業主:陝西省・所在地:西安市

大唐芙蓉園は「長安」として知られた古都・西安市に唐代の様式を再現した中国初の庭園型テーマパークとして計画された。計画地は唐代に実在し、皇帝と市民がともに楽しんだといわれる「芙蓉園」遺跡の北側に建てられた。敷地面積は1000畝（約67ヘクタール）、うち池など水面の面積は300畝（約20ヘクタール）。投資総額13億元。園内は12エリアに分かれ、それぞれテーマが設定されており、盛唐期（713～766年）の文化的繁栄をさまざまな角度から表現している。また、園内には中国最大規模の唐代建築のレプリカ群があり、唐代の各時期・各様式の建物がすべて揃っている。このうち6エリア+1地区について基本計画及び基本設計を行った。



ゾーニング図



# C区: 茶道文化区

## 1. 基本コンセプト

・陸羽茶館を中心に、中庭から外庭まで広い範囲にわたって、静かで落ち着いた環境を作り、茶の香りと茶の文化に浸りながら、心身を癒すことのできる空間をつくる。

## 2. 空間構成要素

### 1) 陸羽茶亭のシンボル: 陸羽鑑水の坐像

・陸羽が水の鑑定をする姿を坐像と甕、茶道具で表現する。四方の敷石が「茶経」に書かれた4茶（粗茶・散茶・末茶・餅茶）を示す。

### 2) 外庭: 四季の花座敷

外庭では、茶の香りを楽しみながら散歩し、茶に囲われた憩いの空間でくつろぐことができる。

### 3) 中庭: 「風」の庭・「火」と「水」の庭

中庭は、中国と日本を結ぶ茶の文化を枯山水の要素を使った庭で表現する。

・陸羽の「茶経」に現わされた三つの要素（坎・離・巽）を中庭の主題とする。

— 「風」により「火」を起こし、「火」により「水」を沸かす。 —



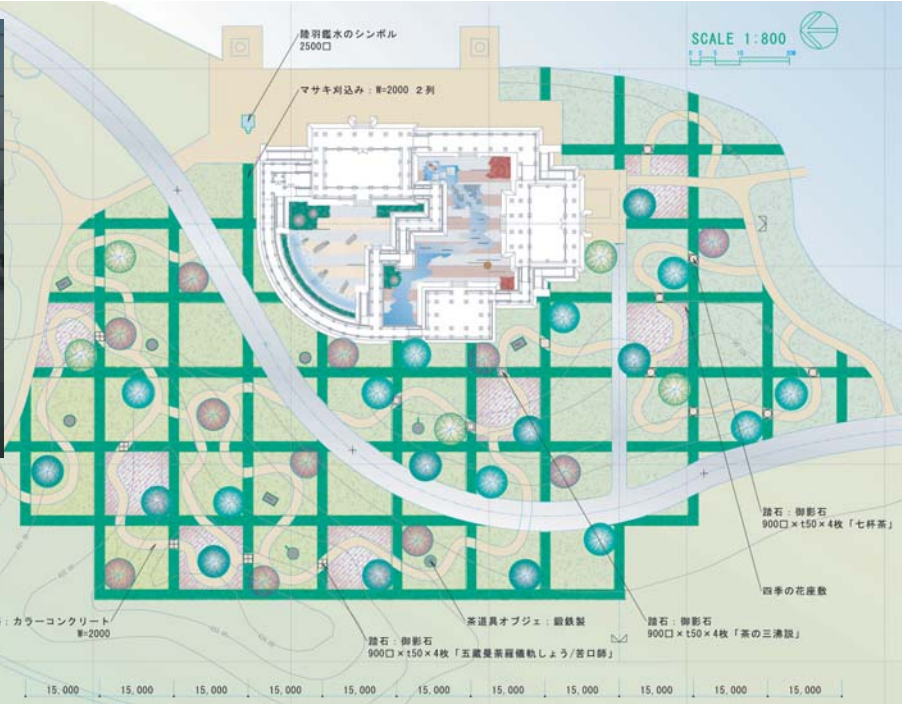
陸羽茶社より中庭を眺める。



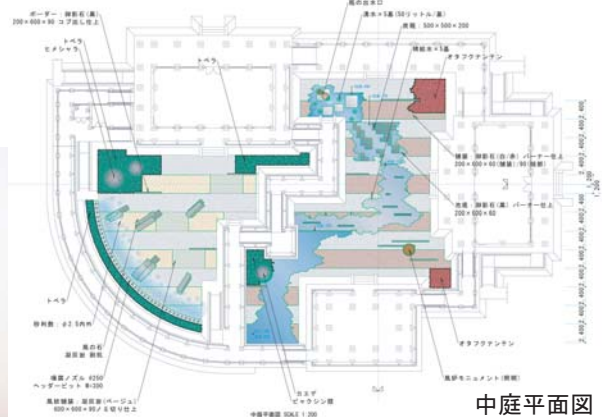
陸羽茶舎中庭



茶道具のオブジェ



外庭平面図



中庭平面図



外庭の全景。右上建物が陸羽茶舎

# A区: 児童遊楽区

## 1. 基本コンセプト

- ・水と道が織り成す非現実的でダイナミックな夢の空間をつくる。
- ・唐代の神童と科学、遊びの要素で施設をデザインし、多様で遊び心にあふれた景観を創出する。

## 2. 空間構成要素

○唐代の知性や理性、科学技術を感じられる安全な遊び場を道（デッキ）空間、親水空間、広場や多様な施設、アートで構成する。

### 1) 神童の道

北門からつづく道空間では、①白居易と玄じんの友情、②子どもの遊び風景、③4神童の苦難の人生を表現する。

### 2) 水の遊び場

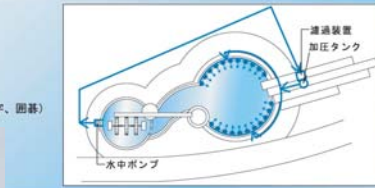
唐代の科学技術（水車、自涼亭）が点景となり、芙蓉池の親水護岸と連続した安全な水の遊び場。

### 3) 科学の広場

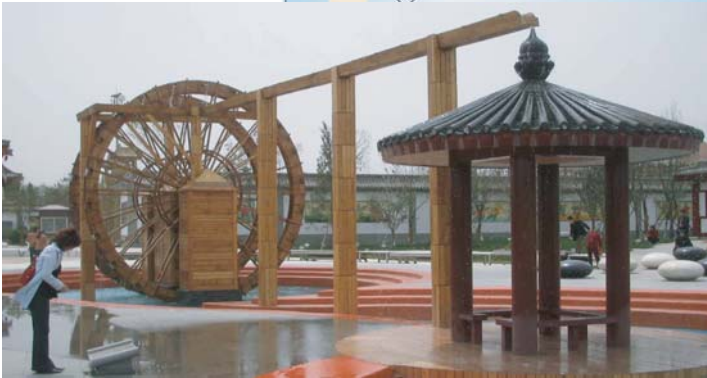
知的遊具としての「碁」（碁）や唐代に発明された算盤や水車、扇や虎子などをデフォルメして、遊具、施設、ファニチャー、空間演出装置をデザインし、随所に配置する。



虎子の道



白居易と元じんの像



自涼亭



碁の庭



水車から自涼亭へ水を流す空中の水路